

## UP! Uozumi-higashi Press

魚住東中トリプルD &lt; Dream, Design and Do it &gt;

2018.1.9(火) 第8号

あけまして  
おめでとーございます

&lt; 新年のごあいさつ &gt;

謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。  
本年もよろしくお願いいたします。

平成三十年元旦 校長 安藤 正昭



## 《生徒のみなさんへ》

お正月をはさんだ17日間の冬休みが終わりました。みなさんはどのようなお正月を過ごしたでしょうか。自分の『夢』実現に向けて、今年一年の計はしっかりと立てられたでしょうか。

三年生はいよいよ受験のシーズンです。将来の夢や目標を実現するために、進路選択ができる大きなチャンスです。自分や家族、先生を信じてしっかりと学習や面接・小論文などの準備を進めてください。みなさんの進路希望が叶うこと、そして夢と希望に溢れた十五の春を迎えられることを願っています。

一、二年生は次のステージに向けてこの一年間の総仕上げをする大切な時期です。四月には、二年生は最上級生として、一年生は中堅学年としていいスタートが切れるように、この一年間の反省をしっかりとし、その反省を次の学年で生かせるようにしておきましょう。

さて、二学期の終業式で話をしたように、文科省より次期学習指導要領が公示されました。四年後には全面実施となりますが、来年から移行期間に入ります。そこではみなさんに育む資質・能力を『何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)』『理解していること、できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)』『どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)』としています。そのため、先生たちはこのような資質・能力を育成するために、どのような授業を進めるべきかを考えています。昨年12月1日に各学年一クラスずつ研究授業を行ったのもその一貫です。

6年ぐらい前から「アクティブ・ラーニング」という学習方法が注目され始めましたが、これはみなさんが自分たちで課題を見つけ、話し合いながら解決方法を見つけ出すといった学習方法です。アメリカの学習定着率についての研究では、学生が勉強したことがどれだけ身についているかを調査したところ、従来のレクチャー形式の授業ではわずか5%、グループディスカッションで50%、仲間の学生に教えたり教えあったりした場合は90%が覚えていたり身についたりすることがわかりました。このことから、これまでのレクチャー形式の一斉授業から、生徒同士で協働しながら課題を解決しようとするアクティブ・ラーニングを取り入れた授業へ転換していきという流れがまず大学から始まり、中学校でも浸透しつつあります。

先日の研究授業ではこういった方法を取り入れた授業を実践しましたが、他の授業でもグループ討議や意見の発表をしている授業をよく目にします。他の意見をしっかりと聴いて、思考した上で判断する力、そしてそこから導き出した自分の考えを自分の言葉で表現する力をつけることが将来必ず役に立ちます。これからの大きく変化するであろう時代の中にあっても、たくましく生きる力をつけていってくれることを期待しています。